

審議会等議事概要

平成 2 0 年度 滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議 議事概要

日 時	平成 2 1 年 2 月 2 5 日（水曜日）午後 6 時 0 0 分～午後 7 時 4 2 分
開催場所	滝川市役所 9 階 第一委員会室
出席者	土居委員長、後藤副委員長、清水副委員長、菊地副委員長、高野常任理事、川西常任理事、黒元委員、山田委員、永見委員、青木委員、西田委員、宮川委員、櫻間委員、河原委員、山内委員、稲葉（了）委員、本間委員 事務局等：田村市長、小田教育長、高橋教育部長、早瀬教育部指導参事、吉川学校教育課長、杉原学校教育課副主幹、土橋学校教育課主査
議 事	1 開 会 2 挨 拶 滝川市長 田 村 弘 事務局）高橋教育部長 本来であれば、今年は任期満了に伴う委員改選の年であり、この会議において、新役員を選出いただくところ。 しかしながら、昨年来議論いただいている道教委による市内再編の問題、あるいは、滝川工業高校土木科の間口問題など、高校教育をとりまく状況の変化に対し、より適切に対応していくため、今後のこの会議のあり方について、見直しを要する時期なのではないかということ、土居委員長と相談させていただいた。 具体的には、組織のあり方や会議のあり方などについて見直し、より一層議論を深めていただきやすい環境を整える必要性が高まっているのではないかと考えている。また、ご参画いただいている P T A の皆さんの改選時期や校長先生方の人事異動の時期なども鑑み、会議の開催時期等の見直しも必要と考える。 このような背景から、この会議のあり方について、このたびの任期の更新時期を使わせていただき、検討させていただきたい。 そこで、要綱により 2 年間となっている委員の任期を、3 月 31 日まで延長させていただき、その間に今後の会議のあり方について、役員会にお諮りし検討させていただきたい。ご了承願いたい。 各委員了承 3 説明・協議 （ 1 ）前回会議からの経過

- ・事務局)土橋主査より「会議レジュメ1ページ」「資料1～資料7」を用いて説明を行った。

質疑等特になし

(2)平成20年度における取組み

- ・事務局)土橋主査より「会議レジュメ2ページ」「資料8及び資料別添」を用いて説明を行った。

質疑等特になし

(3)今後の取組み

- ・事務局)土橋主査より「会議レジュメ3ページ」を用いて説明を行った。

・委員長

この1、2年が特に重要な時期ということで、滝川工業高校を中心に様々な取組みがなされているところである。

こうした取組みの状況を踏まえ、皆様よりどのような取組みを行っていくべきかということについて、ご意見をいただきたい。

例えば、ものづくり講演会の開催など取り組まれている中学校としては、どのような感想を持たれているのかお聞かせ願いたい。

・江陵中学校校長

ものづくり講演会を開催させていただいたが、講師の植松氏より非常に熱っぽい話をお聞かせいただき、我々も子どもたちも大変に意を強くしたところである。夢を持てば必ず叶うという氏のお話を子どもたちも興味を持って聞いていた。

現在、丁度入試の時期であり、入試の面接に向けて練習を行っている。その中で工業高校を受験する生徒の面接も行ったが、特にパソコンや電気などに関しては興味が強いようだが、端的に申し上げて、土木に関しては、なかなか興味を持ってない傾向である。

また、本校は工業高校に大変近く、学校祭の折には大変素晴らしいもくねじ点描画を学校に展示していただき、大変興味を持って子どもたちが見ていた。子どもたちはいろいろな情報を必要としていることから、今後もそういった地道な運動を続けていくということがさらに必要であると考え。どちらかと言えば土木関係については、なかなか説明がしにくいということもあり、工夫しながら伝えていただければありがたい。

・明苑中学校校長

今のお話と似通ってしまうが、植松氏の講演に子どもたちも感動し、自分

もという気持ちになっていたと感じている。しかし、それが即、工業高校に直結するかといえば必ずしもそうではないかもしれないが、いろいろな職業に対して自分の夢や自分らしい生き方を求めていくというキャリア教育の本質から言えば非常に効果はあったと考える。

中学校では高校の保護者説明会や生徒への入学説明会を行っているところであるが、子どものニーズも保護者のニーズも幅広くなっている。そのため、どうしてもいろいろな学校を呼ぶこととなる。そうすると、それぞれの説明時間が少なくなることから、普通科、職業学科などの特色を絞り込んでPRしていただくことも重要と感じる。この学校にきてどういう将来に結びつくのかという説明が各校において若干希薄であるような気がしている。子どもたちは体験入学にも行っているが、面接の練習を受けている中で、何故この学校を受験するのか、この学校の特色は何か、あるいは、この学科で取れる資格は何だ、ということを追及していくと、どうも的を射ていないように感じる。そういった意味では中学校の指導の部分もあると考えるため、もう少し自分の夢を含めた将来を引き出していきたいと感じている。

進路動向について、4月当初、7月段階、入試直前など何回か調査をしており、本校において、当初土木科を希望していた生徒が、最終で他を希望したということもあった。保護者や友達との相談による影響なのか理由は不明であるが、中学校としても工業高校への進路指導をどのように行っていくかということも難しい問題である。

市外へ向けたPRということも大切となってくると考える。市長も先ほど話されていたように、空知の中での工業高校のあり方、そうすると滝川ということではなく、北学区、南学区においてどのようにして生徒を集めるかということも重要となってくると考える。

・委員長

本日事務局から説明があったが、滝川工業高等学校の活性化を支援する会より様々な具体的な取組みを行っていただいております、中学校のキャリア教育と連携しての取組みということも効果的に実施していただいた。しかしながら、結果として今年度は今のところ土木科への入学者が8名ということで残念な結果となっている。事務局としてはこういったところに課題があるのかということについて、おさえている点はあるか。

・小田教育長

入口の問題と出口の問題になると考える。

入口の問題ということになると、生徒本人はもとより、保護者の方の意識ということも変えていく必要があると考える。そういう意味では、PRについて、多重的に行うということも必要であると考えます。新聞報道を見て終わりということではなく、二重・三重にそういったことを行っていく必要がある。保護者の意識を変えると同時に子どもの意識を変えるという部分につい

ては、キャリア教育などを通じて、将来的には自分がどういう方向に就くのかということを早い時期に子どもとして自覚をしてもらうということが必要であるとする。自分自身も工業系の出身であるため、市民生活に密着したところでの働く楽しさということは、やはり工業の特徴であると感じており、自分の成果が目に見える形になりやすいということも工業の特色であるとする。そういう意味で生徒の意識も変えていく必要があるとする。

一方、出口の関係については、土木の関係になると経済情勢ということもあるが、そうやってしまうとそこで結論が出てしまうことになるため、先の社会情勢を含めてどういう形で企業の方と相談できるのか、あるいは、公務員への道ということも土木の場合は割合が高いと考えていることから、そういうPRも必要であるとしている。

・田村市長

滝川工業高校土木科の提案があってから、自分自身も道教委教育長に会うなど様々動いてみたところである。ひとつ道教委に提案したことは、國學院短期大学がどういう戦略で成功途上にあるのかということを中心に詳しくお話してきた。普通科志向で職業学科を選択する子どもが少なくなっている。本当に北海道としてもものづくりに力を入れるということであればどのようなものづくりに力を入れて、厳しいところでどこに力を入れてやっていくのか。國學院短期大学という例がある。道教委のみなさんも学校現場と一緒に、本当に普通科志向でいいのかどうかということを真剣に考えて欲しいということを訴えてきた。

この滝川地域において具体的に普通科志向は何も問題はないということであれば、自分としてはそれもひとつの選択であると思うが、やはり工業系含め、商業系含め、高校において職業課程でしっかり社会をいかに良くしていくかということをして、そして社会人となっていく道というのはやはり重要なのではないかと考える。とすると、滝川地域においてはどこに問題があるのか、そしてどう解決していくべきなのかということをご意見いただきたいと願う。

・委員長

只今、市長よりこの地域において、そういった意味での問題点はあるのか、あるとすればどこにあるのかというご発言があった。それぞれの立場からご意見をいただきたい。

・委員

市長の言われた滝川市としての問題点ということはないとする。自分が中学生であった時の、進路を決めた時のことを振り返ってみると、中学3年生のときの自分は、ただ高校に行くということだけで、職業観ということとは全く持っていなかったというのが現実であり、今の中学3年生もおそらく職

業観、職業高校というものがどういうものかということとはなかなか分からないのではないかと考える。そんな中で今後どうあるべきかと考えると、やはり中学校の課程において高校が中学校の進路の先生にアプローチするというのも重要であると思うが、授業の課程において、3年生になった時点においてただ高校の名前を羅列するのではなく、中学3年生の時点での自分の将来というものと見つめ合う授業、1時間や2時間程度でも構わないと思うが、そういった授業をきちんとした中で後は保護者の方と三者でいろいろと考えていくということが良いのではないかと考える。この活性化プランの資料の最終ページに「生徒の志望と学科内容のミスマッチ」と記載されているが、これは本当に生じてくる問題であると考え。せっかく高校に入っても自分の志望するものではないと、せっかく入るのであれば、中学校の段階からきちんと精査しなければ、土木科、土木科とPRしても、入っても途中で辞める子どもが出てしまうと考える。また、地域の望む工業高校の姿ということで「総合工業科制」とあるが、市がどこまで道立校に踏み込めるのかは分からないが、これは子どもたちのためにも、保護者のためにも、地域のためにも絶対に必要であると考え。普通科への相対的な流れということやはり進学希望の子どもが多いということであり、就職だけでなく進学の過程にある一つの高校であるという位置付けも必要であると考え。工業高校の底上げというか、進学も視野に入れたことも課題ではないかと考える。

(4) 市内各高等学校の状況について

- ・市内3高等学校校長より「学校説明資料」及び「パンフレット」を用いて説明をいただいた。

・委員長

先に中学校の校長先生より土木科ということでは、卒業したその先の進路ということがイメージしにくいのではないかとのご意見をいただいたと思うが、工業高校青木校長先生より土木科の説明の上で工夫されていることなどあればお聞かせ願いたい。

・滝川工業高校校長

土木科の仕事というものは、各地域の様々な基盤整備、例えば道路、橋、河川の安全・保守・維持といった地域になくてはならない技術であると考え。土木に限らず電子機械でも電気でも、新しい何かを起こすということだけでなく、現在あるシステムを維持していくためだけでも絶対必要な技術・技能であると思っている。例えば道路などは使用していればアスファルトが割れてくるなど必ず補修が必要となり、その技術を持った人材が必要となる。そういった面で土木に限らず、工業高校で基礎・基本を学んだ子どもたちが、地域社会を守っていくためには必要な人材であると考え。

・委員長

電子機械や電気ということでは、目の前に機械などがあり、直接携わって何か形として物を作ったり、操作をしたりと子どもたちにとっては、直接的に興味を持ちやすいということがあるかと思うが、土木については、今の話のとおり非常に大切な仕事であるが、直接的なイメージがつかみにくいことから興味を惹かれないということもあるように感じる。当面した課題を解決していくためにどのようなことができ、どのようなことを行うべきかということでは何かご意見を願いたい。

・田村市長

実際土木と建築と分けた場合に、滝川市役所の職員においても圧倒的に土木の職員の割合が多い。北海道開発局においてはもっと土木の割合が多くなるのではないかと考える。このところ滝川市でも職員採用ということではずっと抑えてきている。30人ぐらいここ何年かで職員が退職しているが、その中には技術者もいる。採用については今年凍結を解除して5～6名であり、そういうことから言えば、滝川のみではなく、圧倒的に技術者が不足する時代が来ると考えている。

こういったことに対し、国も北海道も我々も考えていかねば、少子化になって人がいない。どうするか、東京から技術者を連れてくるのか。そういった問題が目の前にぶら下がっているが当面の解決につながらない頭の痛い問題であると考えている。

企業の皆さんは企業として人材を育成することはあるが、かつてとは異なり1日でも早く即戦力になってもらわねば企業もたないという話も伺う。

このような問題について何とか考えていかねばということから、市としてもこの運動に力を入れているところであり、皆さんのお知恵を拝借したい。

・委員

工業高校PTAとして何故こうまで土木科の人気のないのかとがっかりしている。最近テレビ番組を見ているとお笑い番組が多く、その中でクイズ番組においては高学歴の立派な皆さんが活躍されている。そういうものを見ると、やはり上へ上へと進んでいってということになるのかという気持ちになる。しかし、たまたま見た深夜の番組で、工業高校ではなく農業高校を卒業し活躍されている芸人が出身校を訪問するというものがあった。学校が非常に好意的に番組で紹介されており、学校の取組みが大変分かりやすかった。それを見て皆がその学校に行くということにはならないとは思いますが、話や文章で説明されるのとは違いはるかに分かりやすかった。できることならば、滝川工業高校もテレビ局が取材に来て、学校やPTA含めてかなり楽しい取組みも行っていると考えていることから、土木のことや、そのほかのそういった取組みを紹介していただけないかと考える。

PTAとしては、先生方には本当にご苦労いただき、たくさんの指導をし

	ていただいていると感じている。また、なんとか楽しいPTAを作ろうという努力しているつもりである。まだまだ不十分であるが何せ工業高校のPTAというのは楽しいということをどんどん発信していこうと考えていることから、今後ともご協力をよろしくお願いしたい。 ・ 委員 先ほど市長が言われていた技術職を大量に採用する時代が来るのではないかということであるが、例えば、滝川市役所で今後どのような職種を採用していくのかなど情報を出していただければ、きっとそこに入りたい、地元に残って働きたいという子どもも出てきて、そのためには滝川工業高校に入るのが一番近道であるという指導もできる。今、子どもも保護者も安定した職に就きたいという志向があることから、何をしたいかというよりもこういう選択肢があり、これであれば自分にもできそうだというものを選べる状況があればすごく良いと考える。地元に残らせるという施策を市にとっていただければ、子どもたちが市を盛り上げていくという状況になるのではないかと思う。 ・ 委員長 滝川市役所に滝川工業高校から就職された方がいたのか。 ・ 田村市長 我々の先輩・同期において土木系の職員は、ほとんどが滝川工業高校卒の方である。 4 その他 特になし 5 閉会
会議資料	○「会議次第及びレジュメ（１）～（３）」 ○「資料目次及び資料１～８」 ○「資料別添」 ○「学校説明資料及びパンフレット（滝川高等学校・滝川西高等学校・滝川工業高等学校）」 ○「滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議委員名簿」 ○「滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議設置要綱」